

身をちぎられるような思い

まぐまぐ殿堂入り・日刊メールマガジン
「今日のフォーカスチェンジ」第2979号
(2011年12月28日発行)より

身がちぎれるほど、つらい思いを感じる時があります。それは、目の前にいるひと(直接の目の前ではない場合も)が、自分自身の本当のかがやきに気づかないで、自分を責めてしまっている。それにたいして、何もできずにいるときです。

もしも、おおきな声を出すことで、そのひとの気持ちが切り替わるのなら、私は、のどが枯れるまで叫びつづけていい。もしも、「大丈夫」を繰り返して、そのひとが明るい気持ちになれるのなら、私は、1万回でも「大丈夫」を繰り返す。

でも、誰であっても、どんな場合でも、ひとが変わるときというのは、たったひとつです。それは、そのひとが、「決意」するときなのです。

そのひとが、自分で「変わる」と、覚悟を決めて、本気になるときなのです。それなしには、何も変わりません。いくらちからづくで、変えようとしたところで、すぐにもとにもどってしまうでしょう。

だから、私にできることは、そのひとを信頼して、そのひとの生きるちからをとことん信頼して、ただ見守るだけなのです。

もちろん、私にできるサポートはできるかぎりするけれども、本当に必要なのは、そのひと自身の決意なのです。決意さえできれば、ひとは、どうにでも変わるのです。だって、すべてのひとには、無限の可能性があるのでから！

私は、そのことを、微塵もうたがっていません。これまでさまざまなひととかがかわってきて、たくさんのひとが劇的とも言える変化をするのを目の当たりにしてきて、300%確信しています。

「劇的」と書いたけれども、本当はそれが「本来」のすがたなのです。ちがう自分に変身するのではなく、ただ、本来の自分にもどるだけなのです。

本来の自分。それが、無限の可能性をもった自分、ということ。そこに気づくことさえできれば、あとは、何も心配することはありません。そのひと自身のちからによって、そのひとは、自分をかがやかせていくことができるのですから！

…目の前にいるひとが、自分自身の本当

のかがやきに気づかないで、自分を責めてしまっている。それにたいして、何もできずにいるとき。身をちぎられるような思いで、私は、こころのなかで叫んでいる自分に気づきます。

生きて！ 生きて！ あなた本来のかがやきをとりもどして、生きて！

このメッセージを書きながら、私は涙があふれてくるのを、止めることができません。どうして、自分が、そんな思いにかられるのか、わからないのです。

そのときどきに、目の前にいるひとは、別に、家族でもなければ、友人でもなく、ただ、たまたま出会ったひとにすぎなかったりします。ときには、直接ではなく、メールを介して、会っているに、すぎなかったりします。

それでも、そんな声が、突き上げるように、自分の内がわから、起きてくるのを感じるのです。胸がぎゅっと熱くなって、こころの叫びを止められなくなるのです。

こんなことを書くのは不遜かもしれないけれど、そのとき、私は、そのひとの魂の声を、感じているのかもしれない。「このひとは、いま、自分が思っているより、もっともつとすてきな 魅力があるんだよ。

そのことに気づかずに、自分を否定するような見かたのまま、たった一度のいのちの時間を過ごしていることが、かなしくてたまらないよ」

そんな声を、聴いているのかもしれない。いえ、たしかに、本当に、そんな声が聴こえてくるような気がするのです。

今日のメッセージを、私は、どのようにあなたに手渡していいかわかりません。どうぞ、受け止めたいように、受け止めてみてください。もちろん、スルーしてもかまいません。

書きながら、ただ祈ります。あなたの魂の声にしたがって、あなたが一番かがやく生きかたを、どうぞ、生きてくださいと。信頼のエネルギーを祈りとおして、送りつけます。

生きてください。最高にかがやく、あなた自身を！

●日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」(かめおかゆみこ編集・発行)は、2003年11月1日創刊。2011年10月、2900号達成。3秒で読める携帯版もあり。無料講読は「かめわざ快心塾」から♪

<http://kamewaza.com/>